

支所だより

東予・丹原・小松の各総合支所管内での、身近な出来事や話題などを紹介するコーナーです。

東予総合支所

〒799-1394 周布349番地1 TEL0898-64-2700 FAX0898-65-4363

新鮮な海の幸を皆さんに!!

～ 壬生川大漁市 ～

燧灘で獲れる新鮮な魚介類を漁師が自ら販売する、東予地域漁業協同組合連合協議会主催の「壬生川大漁市」は、当日の朝に水揚げされたばかりの魚介類の新鮮さと、漁業者の顔が見える安心・安全がセットになっているうえに、割安での販売とあって、毎回多くの皆さんに来場いただいています。食生活の欧米化に伴う魚離れや燃料代の高騰、従事者の高齢化など厳しい環境の中、消費者の声を直接に聞くことのできる機会とあって、「いい物を多くの消費者に」と漁業者のやる気も高まりを見せています。

新鮮な魚介類以外にも、地元材料100%のじゃこ天の実演販売や、名産のバラ海苔・味付け海苔のほか、鯛飯・魚のフライ・青のりロールケーキなど各種海産加工品の販売

も行っており、また月替わりの楽しいイベントも好評を博しています。

昨年6月の開始からもうすぐ1年が経ちますが、さらに多くの方にお越しいただけるよう、さまざまな工夫をして盛り上げていきたいと考えています。皆さんも日曜日朝の活気の中、郷土の新鮮な海の幸に出会ってみませんか。

日時：毎月第二日曜日
午前8時～11時
(商品がなくなり次第終了)

場所：壬生川地区
小型船だまり
(フジボウ愛媛側)
壬生川工場東側)

問合せ：壬生川漁業協同組合 (TEL 0898-64-2019)



新鮮な瀬戸内の幸が山盛り!

丹原総合支所

〒791-0592 丹原町池田1733番地1 TEL0898-68-7300 FAX0898-68-4769

鳥獣害対策とふるさと産品づくり

～ 「山くじら」の地産地消 ～

全国で野生鳥獣による農林業への被害が深刻化していますが、中山間地域である丹原地区でもイノシシ等による農作物被害が著しく増加しており、後継者不足や高齢化などに悩む農家にとって頭の痛い問題となっています。

このような鳥獣被害を食い止めるために丹原地区では、防護柵等の設置や丹原町猟友会に依頼するなどして、例年20頭前後のイノシシを駆除しています。

しかしながら、古来から中山間部ではイノシシのことを「山くじら」と呼び、



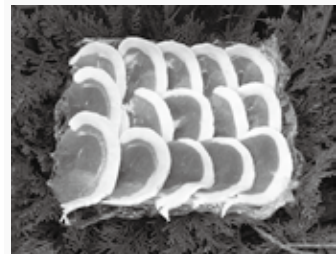
捕獲されたイノシシ

冬場の貴重なタンパク源としてきました。また最近では、全国的に低脂肪・高タンパクでヘルシーなイノシシ肉を、地域の眠れる資源として特産加工品などに活用する動きが見られるようになってきました。

こうした中、丹原町猟友会のメンバーの中には営業許可を取得し、これまでは自家消費されることがほとんどだったイノシシの内、猟期に捕獲したものについて食肉用に加工して販売を開始した方もいます。

地産地消を進める意味からも、一度ご賞味されてはいかがでしょうか。

問合せ：
ヘルシーメイト猪鹿鳥
(TEL 0898-73-2716)



シシ肉「山くじら」

小松総合支所

〒799-1198 小松町新屋敷甲496番地 TEL0898-72-2111 FAX0898-72-4048

大日裏山古墳群と出土遺物

～ 古代を知る手がかり ～

四国霊場61番札所香園寺の南、市内の平野部を一望できる標高約90メートルの丘陵地に6基の古墳があります。

尾根の一番西の高所にある大日裏山1号墳は直径約25メートル・高さ3.8メートルの円墳です。主体部は竪穴式石室で古墳時代中期、5世紀頃の築造と推測されており、明治40年頃に内行花文鏡が出土しています。

また、その東に約30メートル離れた2号墳は直径30メートル・高さ5メートルの大きな円墳で、1号墳と同じ構造であると考えられています。1号墳は平成20年、2号墳は21年に遺跡発掘会と小松史談会会員により墳丘測量が



市文化財「内行花文鏡」

行われ、正確な現状が確認されましたが、稜線の先端部にある3号墳は、上水道の配水池設置のため昭和36年に消失し、その際に埴輪片が採取されています。さらに、その北斜面の4～6号墳では盛土の崩壊が見られます。

昭和40年にこの丘の南斜面から出土した、7世紀末頃の高い位の豪族の所持品と推測される銀装大刀は、柄頭が銀の唐草文で飾られ、また吊り金具も残っており、法安寺遺跡や永納山遺跡との関連性なども想起されますが、現物は遠く離れた東京国立博物館に収蔵されています。

遺跡の現状調査の実施や散逸している出土遺物の確認作業が、今後の西条市の古代史探求の手がかりとなります。



昭和40年に出土した銀装大刀(長さ約78cm) 東京国立博物館所蔵